

令和 8 年度事業計画

阿武山たつの子認定こども園

令和 8 年度は開園 30 年目の節目となる年である。そこで今年度は「30 年ありがとう!それぞれの“たつの子”を語り合おう」をテーマに、現役の職員はもちろん、たつの子に関わってくださったみなさんを巻き込んで、それぞれの“たつの子”を語り合い、たつの子の魅力を再確認したい。また園内では、30 年かけて積み上げてきたたつの子の保育をリストラクチャリングする 1 年にしたい。

・30 周年版たつの子夏祭り:30 周年の記念イベントとして「たつの子夏祭り」を拡大し、歴代の卒園生や保護者、地域の方々や退職した職員など、たつの子に関わってくださったみなさんを園に招待したい。具体的な内容については園内でプロジェクトチームを立ち上げ検討していくが、それぞれの立場で“たつの子”について、例えば思い出や好きなどころなどを語り合い、みんながたつの子の魅力を再確認し、次の 30 年につながっていくような機会としたい。

・大規模修繕の実施:これまで 30 年間丁寧に使い続けてきた園舎の外壁塗装や手洗い場、トイレ、床暖房の入れ替え等を主な内容とする大規模修繕を計画している。また開園当初からは保育の方法や内容も随分進化し、人数の規模も大幅に拡大している中で、保育室の大きさや間取り、子どもたちの導線を考え改修したい。一部自費工事となる部分も見込まれるが、修繕部分は大規模修繕補助金を活用して実施したいと考えている。

・保育のリストラクチャリング:2 年前から実施している園内公開保育は、保育者の悩みを自分事として共有し、前向きに捉え、対応策を考えるととても良い機会になっている。令和 8 年度はこれをさらに活用して、たつの子の保育の現状を見つめる機会としたい。一方、職員の同僚性を高めるなどの目的から始めた園内対話の会については、子どもから離れてじっくりと話せる貴重な時間でありながら、前後の準備や振り返りまではなかなか辿り着けず、効果的なものにしきれなかった。令和 8 年度のテーマに照らした時に、目の前の保育から離れた視点で語り合う時間は一旦減らし、たつの子の保育について考える時間を増やすことを検討していきたい。また昨年度から取り組み始めた「つどい」の研究については、わずかな時間で語り合う中で、必ずしもつどいだけでなく、その土台となる乳児クラスの担当制保育なども含めたたつの子の保育全体について考えていく必要性を感じている。「何のために」「何を大切に」「どんなふうに」などの問いをもとにじっくり話し合う時間を取りたい。「つどい」については子どもたちの対話に関する資料集めや、必要であれば外部講師なども招きながら研修会を行うとともに、外部の園の見学や、つどいに特化した公開保育など、職員からの案も取り入れながら進めていきたい。また「担当制保育」については、これまでたつの子独自で進めてきた「ゆるやかな担当制保育」の目的や方法について一度見直すとともに、改めて職員間で同じ目的を共有したい。たつの子30周年を機会に改めて原点に立ち返り、根っこの部分が揺るがないよう職員同士でも対話をしながら、再構築する 1 年としたい。

・職員体制について:園全体の経験年数が上がってきており、チーフを担当できる職員がとて増えてきた現状がある。そこで若手の職員にさらに活躍してもらうために、令和 8 年度は若手の職員にチーフを担当してもらい、副主幹以上の職員が中心となって上述した保育のリストラクチャリングを進める体制をとりたい。副主幹以上の職員 6 名で定期的に会議の場を設け、広い視点でたつの子の保育全体を見直し、再構築していきたい。